



©Yuki Asada

コットンが生み出す未来

大地に点在する高床式の住居。そのそばの田畑で、家族のために、朝からせせとコメや野菜を作る女性たち。カンボジア南西部、首都プノンベンから約150キロのカンボット州の村に広がる日常だ。

青年海外協力隊OGの松島愛さんは、この村で2年間暮らす中で、あるアイテムが気になっていた。現地の人たちの日々の生活に欠かせない“クロマー”と呼ばれるチェック柄に織り込まれた布だ。

頭や首、腰に巻くのもあり。タオルや風呂敷としても、使い勝手が良い形だ。使い古したものは、足ふきマットとして大活躍。日本の手ぬぐいとどこか似ている。

そのクロマーを使って、外で仕事を

ることが難しい村の女性たちを助けた。松島さんは村の職業訓練校の教員や生徒たちと協力して「Tau mock ^{タウ} ^{モック} ^{テイ} ^{エフト} tiet」を立ち上げた。クメール語で「もっと前へ、もっと未来へ」の意味。綿100%のクロマーを織る技術を身に付け、自分たちで生計を立てられるようになってほしいという願いを込めた。

「今は、身の回りにある植物で染料を作って糸を染めて、織物にする技術をみんなで学んでいます」と松島さん。手織り独特のふんわりとした肌触りが特徴。日本でも販売を始めている。

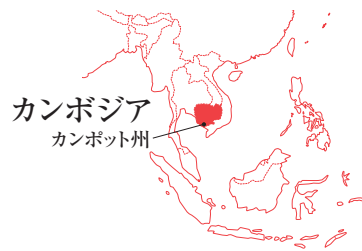
自然の恵みから生まれた優しい色合いのクロマー。生活のあらゆるシーンでお役立ちアイテムになりそうだ。



手触りの良い布は、女性たちの丁寧な仕事のためものだ

★クロマーを2人にプレゼント！→詳細は38ページへ

★Tau mock tietの商品は、ホームページ(www.tau-mocktiet.com/)から購入可能。



カンボジア
カンボット州